

Lamellisabella

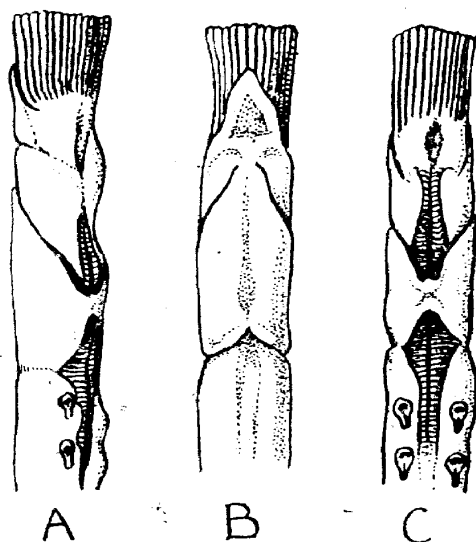
1933年ソ聯の Institute of Hydrology の太平洋探險の際エトロフ島の北方約 160 km (北緯 45°41.5' 東經 147°28') 約 350 fm の深海からトロールに掛つて上つて來た珍奇な動物があつた。標本はレニングラードの科學院博物館に保存してある。P. USCHAKOW はこれを *Lamellisabella zachsi* と命名し多毛類中の Sabellidae に類縁近きものとなし新に Lamellisabellidae なる科を造つた (Zool. Anz. 104 pp. 205-308)。

1937年スウェーデンの K. E. JOHANSSON がその標本 2 個をレニングラードより手に入れ觀察した結果多毛類に屬すべきのに非ずして寧ろフーロニスに近きものであるとして豫報を Zool. Anz. 117 に發表し Pogonofora なる新類に屬する動物とした pogon はギリシヤ語で鬚を意味する。

1938年に E. REISINGER は Fortschritte d. Zool. 3 にこの動物は Oligomera に屬するもので Tentaculata と Enteropneusta の中間にある特種の動物類 Pogonofora の創設を承認してゐる。

1939年に K. E. JOHANSSON が本報を Zoologiska Bidrag fran Uppsala 18 pp. 253-268 に發表した。何にしる保存の不完全な標本 2 個を縦横の切片に造つたのであるから體制の重要な點も確め得ず残念な論文であるが彼は f を ph に變へて Pogonophora なる新綱の代表者として記載してゐる。私の感想は此動物は前肛類の一員でフーロニス類か翼鰓類の近所に位するのである。エトロフ近海を探險せらるゝ諸君は此動物の新鮮なる標本を採集され固定を完全にして研究していただきたいものである。

動物はキチン質の暗褐色の眞直な薄い管(長さ 300mm 直徑 2mm) に入り體長 140mm 直徑 1-1.5mm 體は 3 部より成り頭部に 29 の觸手を有す。各觸手長さ 20mm で 2 列の小枝 (pinnules) がある。頭と胴との間に襟狀の部分あり左右に突起を出しそれが腹部で橋を形成してゐる。胴部腹面には約 20 對のキチン型の馬蹄狀の小體を有す。尾部は胴部より括れにより明亮に區別されてゐる。
(谷津直秀)



Lamellisabella zachsi

A 斜に見たるもの; B 背面; C 腹面
3 圖とも觸手の先端を切つた如く示す。